



(財) 福澤記念育林会

「育林友の会」ニュース

第1号 発行日 2002年1月 日
財団法人 福澤記念育林会
東京都港区三田 2-15-45
慶應義塾 管財部 管財課
TEL 03-5427-1532

安西塾長のメッセージ

森林の成長と慶應義塾—「育林友の会」の発足を祝って

慶應義塾塾長
安西祐一郎



慶應義塾が育林活動もやっているというと驚く人がありますが、福澤記念育林会が設立されたのが昭和39年、今では160ヘクタールの山林に40万本以上の木が育っています。最近の環境への関心の高まりと、教育のあり方に発想の転換が求められていることを考えると、広く森林にかかわる活動が、次の世代の若い人々の教育に、ヒントや可能性を秘めていることに気が付きます。育林会は、これまでは主として林業三田会の支援によって活動が支えられてきました。

しかし、より幅の広い活動を展開するには、これまで林業に関係ない人々、環境や自然に関心を持つ人々の支援が必要です。

樹木は自然環境の中で、人間の一生をはるかに超える時間を生き、われわれの予想を越えた成長を遂げ、新しく豊かな生命現象を育みます。慶應義塾の発展もこのようであって欲しいと願っております。

「育林友の会」には慶應義塾の卒業生だけでなく幅広い方々が、また地域や年齢もさまざまな方がおられると伺っています。活動への協力や参加を通じて交流を深める中から、他では得ることのできない経験を得られることでありましょう。慶應義塾においても、すでに志木高等学校や幼稚舎生をはじめ、生徒諸君の植林参加などが個々には行われていました。いずれこの輪が大きく広がって、幼稚舎生から大学生、大学院生まで、さらには卒業生なども含めて、森林を考えながらみんなが一体感を体験できるような行事も行うことが出来れば素晴らしいことであると考えます。

「育林友の会」の発足は、ある意味で時代の要請に応えたものとして与えられたいと思います。森林を維持し育てる役割の「育林会」と、森林の場を教育や自然環境体験に活用する「育林友の会」が、共に順調に発展して、慶應義塾の社会への貢献に新しい広がりや厚みを作り出すことを期待しております。

目次	
安西塾長からのメッセージ	1
森を愛する人々の集いのご案内	2
那須山林での植樹の予告	2
宮城県志津川山林の紹介	3
日本野鳥の会を訪ねて	4
第一回「育林友の会」報告	5
連載「森や樹の紹介No1」	6

森を愛する人々の集いのご案内



「森を愛する人々の集い」を開催いたします。この会は、三田キャンパスに森を愛する方々にお集まりいただき、「森ってそんなに素敵だったの!」「へー、森はそんなに大事なんだ」「うーむ、森に行きたくなった!!!」と言った具合のトークを3人の方々にしていただきたいと思っています。
夜は出席者が飲み物片手で語り合える場もご用意させていただきました。「森が好き」「森の事を知りたい」という方は、是非とも三田のキャンパスにおいで下さい。

芳村真理さん

出演者 : 芳村真理、内山節、松田輝雄



内山節氏

日 時 : 平成14年3月2日(土曜日)
午後3時から5時までトークショー、
午後5時30分よりパーティー



場 所 : 慶應義塾大学 三田キャンパス
トークショー 校舎 教室
パーティー 三田キャンパス北館 ファカルティークラブ

会 費 : 5,000円(パーティー会費)

那須山林植樹へのお誘い(4月下旬~5月中旬を予定)

植樹に参加し、気持ちのよい汗を
素晴らしい那須の大自然の中で、

昭和51年に卒業された方々は、今年で卒業25周年を迎えられましたが、それを記念して募金活動を行ない、集まった寄付金の一部を割いて那須の森林で植樹活動をされることになりました。

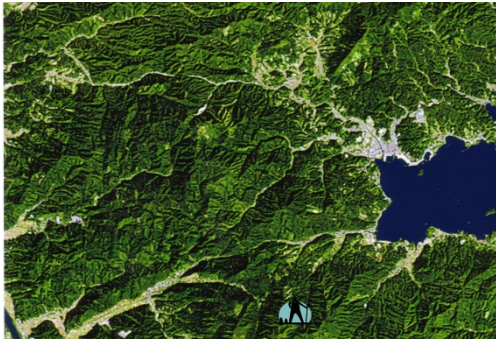
「育林友の会」の皆様は、是非ご参加を頂きたいと願っています。

◇日 時: 4月下旬から5月上旬を予定
◇集 合: JR那須駅
那須駅から送迎バスを用意します。

◇参加費: 那須までの交通費と昼のお弁当代



福澤育林会の山林紹介（志津川山林）



志津川町の衛星写真(ランドサット)

福沢記念育林会の志津川山林は、宮城県の牡鹿半島の北、陸中海岸の志津川町に在ります。町は美しい志津川湾に面し、漁業や観光に力を入れている素晴らしい所です。

近くには伊達62万石の領地として武家屋敷や明治時代の建造物が数多く残る登米町(とよま)があり「宮城県の明治村」と呼ばれている美しい街もあります。この素晴らしい地に、地元の卒業生のご皆様の尽力により昭和46年に山林を取得し、育林活動を行ってまいりました。

【山林の概要】

所在地 宮城県志津川町大字戸倉

昭和47年植栽 スギ 14.00ha

昭和48年植栽 スギ 14.30ha

昭和49年植栽 スギ 8.68ha

自然保護にご尽力されている日本野鳥の会を訪ねて

日本野鳥の会は「野鳥を愛する人々の集い」という側面と「自然保護団体」としての機能を併せ持つ、日本最大規模のNGOです。野鳥を通して自然に親しみ自然を守る活動は、全国に広がる88の支部と52,921の会員(2001年11月末現在)の力で支えられています。入会のお問合せ、会員のご紹介をお待ちしています。

〒151-0061 東京都渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階 (財)日本野鳥の会 会員センター

TEL: 03-5358-3510 FAX: 03-5358-3608

E-mail: shiryou@wbsj.org http://www.wbsj.org/

ところで、皆様はご自分の街にどんな野鳥がいて、どんな暮らしをしているかご存知でしょうか。バードウォッチングを通して彼らについて知ることは、自然を理解したり、環境を考えることにも役立ちます。こうしたことから(財)日本野鳥の会では初めての試みとして、来春、バードウォッチング検定を行い、皆様にバードウォッチングをもっと楽しんでいただこうと考えています。この検定は、これからバードウォッチングをしてみたい方、ベテランバードウォッチャーの方、どなたでも受験できますので、ぜひチャレンジしてみてください

第1回バードウォッチング検定募集要項

開催日時: 2002年3月17日(日) 午前11時~12時

受付期間: 2001年12月1日(土)~2002年2月13日(水)

受験料: ¥3,000

バードウォッチング検定問題例

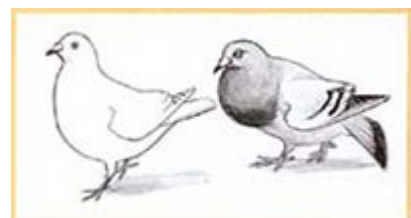
例題1 以下のうち、巣箱を利用する種はどれですか?

- A. メジロ B. ヒヨドリ C. シジュウカラ D. ツバメ

例題2 ドバト(カワラバト)の群の中で、1羽が尾羽を広げ、喉を膨らませてお辞儀のような行動をしています。

どんな意味があると考えられますか?

- A. 群の強いものが威嚇を示している
B. ファミリーの間で挨拶をしている
C. ひなが親に餌をねだっている
D. オスがメスに求愛している



申込書等詳しい資料のお問合せ

(財)日本野鳥の会 バードウォッチング検定係

TEL: 03-5358-3516 FAX: 03-5358-3608

E-mail: nature@wbsj.org ホームページ: http://www.wbsj.org

三田の山上で第一回「育林友の会」を開催

12月6日 三田キャンパス北館「ファカルティークラブ」において第一回「育林友の会」を開催いたしました。楽しみながら学び、また学生達の活動を支援する「育林友の会」に相応しい和気あいあいの雰囲気のもと、設立以降の経過や今後の事業計画が報告されました。懇親会では各所に人の輪が出来、楽しそうに語り合う姿が見受けられ楽しい夜の一時を過ごしました。



森林について熱心に語り合う風景も



ご婦人も多数ご参加を頂きました

連載—①「森の希望」

岸由二(経済学部教授・生物学)



エノキの樹液を吸いに来た
ゴマダラチョウ



日吉の森風景

数年前、キャンパスの一隅にエノキを植えた。学生たちが「鬼の寝床」となづけた崩壊地である。崩壊地はササやクズが入り込み雑木林の復活を止める。その一部を刈り取って、街で枯れる運命のエノキの稚樹を数本植えた。周知のようにエノキはゴマダラチョウやオオムラサキなど見事な蝶たちの食樹でもある。数十年の未来、そんな蝶たちの賑わい舞う森が、そこに再生されるかもしれないという夢もある。

下末吉台地の一隅にある日吉キャンパスは、面積約40ヘクタール。雑木林を中心とした森が敷地の4割を占め、周辺市街地の中では飛び抜けて大きな緑の島だ。その領域を散策し始めて20年。最近では歩かずに森への心配が大きくなる。伐採・更新が止まって巨大木が目立つ斜面は崩壊が心配だ。地表に水系のない丘の乾燥が気掛かりではない。蔓植物やモウソウチクの繁茂も目立つ。秋の林縁を賑やかに飾った野菊の花群れは一体どこへ消えたのだろう。あんな世話もありうる。こんな手当てもありうる。森の未来をあれこれ考えると、思わず散策の脚も早くなる。

そんな心配症に最近少し希望がある。同じ心配症の教員仲間が見えてきた。切れた凧のような環境主義でなく、自然への愛をもって体の動く学生たちも見えてきた。仲間たちでエノキ林のササ刈りなどもやってみた。日吉の森のお世話のビジョンも語ってみた。話を聞けばそんな教員・学生の一部が育林会とも繋がっている。日吉の森の心配から、丹沢の森、育林会の各地の森、さらに列島の自然や、地球環境の危機に話が及ぶ。昨年、縁あって案内していただいた三重県・志木の森の話題も出て、なんだか世界が繋がってきた。いまここに見えてきたのは、足下の日吉の森に発し、愛や志をもって列島の自然・地球の危機を心配できる足下派・地球人たちの、崩壊地のエノキの群れのような希望なのかも知れないと思うのである。